

年報第21号の刊行にあたって

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-05-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00061930

年報第 21 号の刊行にあたって

2020年（令和2年）の当教室の診療、教育、研究活動の記録を年報第21号としてまとめました。学内、関連施設、国内外の多くの方々から多大なご支援、ご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

2020年、中国湖北省武漢市で最初に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界的大流行になりました。3月11日、WHOはパンデミックを宣言しましたが、12月の段階で感染者数7000万人、死者数160万人を上回りました。各国は感染対策と経済活動維持の両立という難題に直面しました。12月にはワクチン接種が英国や米国で始まりました。

わが国では、急速な感染拡大を受け、4月7日に政府が緊急事態宣言を出しました。病院では感染病床や医療器材が不足し、街ではマスクや消毒液などが店頭から消えました。“social distancing”や“telework/remote work”といった新しい生活様式が始まりました。しかし、8月（第2波）と11月（第3波）には感染が拡大し年末に向かって新規感染者数は急速に増加しました。観光業や飲食店を支援するため“Go To トラベル”や“Go To Eat”などのキャンペーンが企画されましたが中止を余儀なくされました。コロナ禍のために2020年夏に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックは1年延期されました。

COVID-19 以外では、1月末、欧州では英国がついに EU から離脱し欧州は歴史的な転機を迎えました。わが国では安倍首相が辞任し9月に菅首相が就任しました。11月、米大統領選が行われトランプ大統領に対し民主党のバイデン前副大統領が挑み、バイデン氏が勝利しました。

金沢大学においても COVID-19 感染拡大防止に向けた活動指針や注意事項を繰り返し発出して未曾有の事態に対応しました。3月からの講義実習中止期間を経て、4月から講義も臨床実習もオンラインで行われるようになりました。オンラインでの“臨床実習”というのは前代未聞の事態でしたが、学生さんたちはウェブ上でケースプレゼンテーションやディスカッションなどに熱心に取り組みました。学生さんには、かのアイザック・ニュートンも、ペストの流行でケンブリッジ大学が封鎖され故郷に帰省した1年半の間に、万有引力や微積分などの後に近代科学の始まりとなる重要な概念について思索することができた、大学でプラトンやアリストテレスといった古代の学問ばかり勉強していないですんだ、といった逸話を紹介し、励ました。

当科も全力をあげて COVID-19 対策に取り組みました。その様子を伝えるため、私が4月9日に当科関係者全員に出したメールを下に記録しておきます。

脳神経内科の皆さんへ

お疲れ様です。脳神経内科の山田です。

日頃から診療、教育、研究などさまざまな領域でがんばっていただきありがとうございます。皆様のおかげで、脳神経内科の活動はかなり充実してきましたが、このたび、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の急速な感染拡大に伴い、今週には緊急事態宣言が発令されるなど、通常の活動を制限せざるを得ない状況に至りました。そのため、4月6日、スタッフと相談して「金沢大学脳神経内科 COVID-19 感染拡大に関する対応指針」（Ver. 1）を出しました。この指針は、今後、感染の状況に応じて随時アップデート（バージョンアップ）してまいります。

皆さんは、社会の重要部分である医療を支え、さらに未来の社会に貢献する医療を創り出す大切な役割を果たしています。まずは、ご自身やご家族の体調を維持することに気を付けてくださいますようお願いいたします。

なるべく脳神経内科診療の質・量を維持していきたいと思いますが、当科の勤務者や患者さんが COVID-19 に罹患するリスク、その結果当科が全面的な閉鎖状態に陥るリスクなどを考えますと、多人数の全員集合形式でのカンファレンスなどを見合わせざるを得ず、オンライン会議化をはかるなどの工夫をします。また、教授回診を当面中止し、毎朝私が病棟を回って入院患者さんを診させていただくことも見合わせ電子カルテで拝見するのものとします。患者さんとお話をして診察することができなくなるのは大変残念ですが、私が感染者となった場合に病棟全体に感染を拡大させるリスクの大きさを考えるとやむを得ません。

また、4月15日からは北病棟1F（現在の精神科病棟）が COVID-19 感染病棟（重症）となる予定です。脳神経内科疾患を有する患者さんが COVID-19 を発症した場合、あるいは COVID-19 の患者さんが髄膜炎・脳炎などの脳神経系の病態を呈する場合などでは、当科も診療に関わることになると思います。

今後、当院における、そうした COVID-19 の拡大状況に応じて、当科の診療規模を縮小するなど、柔軟に対応していきます。

教育については、実習は全面的にストップし、講義はオンライン化をはかります。病棟の主治医チームの先生方には、是非、若い先生方に脳神経内科診療の面白さを伝えていただくようお願いします。研究については、重要な部分に焦点を絞り継続中の研究を進めていくことになると思います。また、この機会に、論文化が遅れている臨床論文（症例報告など）をまとめてくださるようお願いします。また、たまっているデータを解析する、標本を見直す、読んでなかった重要文献を読む、今後検証すべきオリジナルな仮説を考えてみるなど、これまでやろうと思っていてできなかったことをやる機会にしていいただければと思います。

現在の“COVID-19 危機”ともいふべき状況は、私たちにとって未経験のストレスです。昨年度末から、ほとんどの行事が中止され、外出も思うようにできず、気持ちも暗くなりがちかもしれません。しかし、これは、これまでの活動を見直し、いろい

ろな新しい試みをやってみるよい機会でもあります。「物事がうまくいかない時にこそ成長する(うまくいっている時は成長しない)」というのはたぶん真実だと思います。作家・開高 健が愛した名句に「漂えど沈まず」があります。これはパリ市の標語とのことです。私たちは荒波で揺れ動いても沈没しません。これを成長のチャンスと捉え、皆さんがいろいろな面でチャレンジしていくことを期待しています。

それでは、皆さん、お身体に気をつけてがんばっていきましょう。

2020年4月9日 山田正仁

その後のCOVID-19の感染状況の変化に対応して、文中にもあります当科のCOVID-19 対応指針を Ver. 12 までバージョンアップしていきました。幸いにも、当科の構成員・ご家族や病棟スタッフ等から感染者を出さずに診療や研究を継続することができました。大学病院では COVID-19 重症病棟を設置していますが、2020年12月からは当科からもほぼ1か月おきに人員を派遣するようになりました。

当科関連病院の一部ではクラスターが発生しましたが、同門の先生方が活躍し、その制御に当たりました。

コロナ禍で多くの学会の開催が影響を受け、ウェブ形式やハイブリッド形式での開催、あるいは開催延期や中止などの措置がとられました。当科では、第61回日本神経病理学会総会学会学術研究会(JSNP 2020)と第32回日本神経免疫学会学術集会(JSNI 2020)を完全ウェブ形式で開催しました。

JSNP 2020 (図1)は、当初2020年6月25日～27日に金沢で開催予定でしたが、感染拡大のため10月12日～14日に延期し、さらにウェブ形式に変更して開催しました。

『神経病理を学ぶ、活かす、極める』をテーマとし、初心者から専門家まで、神経病理学を楽しむことができるようにプログラムを企画しました。金沢大学脳神経外科・中田光俊教授に副会長をお願いし、当科の坂井健二講師が事務局長を担当いたしました。特別講演では、共同研究者の Mathias Jucker 教授 (Tübingen 大学) にアルツハイマー病の脳病理変化出現前の変化などについてご講演いただきました。シンポジウムや口演では、事前に録画した講演動画を配信し、座長・演者はウェブ参加者からチャット機能を利用してリアルタイムで質問を受け活発な討論が行われました。一般演題のポスター発表では e ポスターのウェブ上での閲覧とチャットでの活発な質疑応答が行われました。

第61回 The 61st Annual Meeting of the Japanese Society of Neuropathology
日本神経病理学会総会
学術研究会 JSNP2020
Kanazawa

(会期) **2020-6-25 (水) ~ 27 (土)**
WEB開催(LIVE) 10月12 (月) ~ 14 (水)
オンデマンド配信 10月19 (月) ~ 11月16 (日)

会 場: WEB開催特設サイト URL: jsnp2020.jp
会 長: 山田 正仁 (金沢大学大学院医学部神経科学科 脳老化的神経病理学・脳神経内科学)
副会長: 中田 光俊 (金沢大学大学院医学部神経科学科 脳・神経免疫学・脳神経外科)

【Special Lecture】
Early changes in Alzheimer disease pathogenesis:
Pathogenic seeds and DIAN
Professor Mathias Jucker (University of Tübingen, Germany)

【演習セッション】初心者、医学生歓迎！
神経病理を学ぶ(1): 脳・神経病理学の魅力、覚えよう！
脳・神経病理学の基礎を学ぶ講座 会場 金沢市
神経病理を学ぶ(2): 代表的な疾患の脳を自分で見てみよう！
脳を自分で見て、その脳から脳を学ぼう！
【シンポジウム】、【ホットトピック】、【ワークショップ】、ほか

実行委員会事務局: 金沢大学大学院医学部神経科学科 脳老化的神経病理学・脳神経内科学 〒920-8640 金沢市金沢1-13-1 E-mail: jsnp2020@med.kanazawa-u.ac.jp
運営事務局: 株式会社エクスナレッジ 〒420-0018 愛知県名古屋市昭和区御津町 TEL: 052-216-7000 FAX: 052-216-7100 E-mail: jsnp2020@exn.co.jp

図1 第61回日本神経病理学会総会学術研究会ポスター

JSNI 2020 (図2) は当初10月1日～2日に金沢で開催予定でしたが、ウェブ開催に変更しました。『神経免疫学が拓く脳神経疾患診療の未来』をテーマとしました。保健管理センター・吉川弘明教授に副会長をお願いし、当科の岩佐和夫准教授(現・石川県立看護大学教授)/古川 裕先生が事務局長を担当いたしました。Vanda A. Lennon 教授(Mayo Clinic)・華山力成教授(金沢大学)の特別講演のほか、『未来(30年後)の神経免疫疾患の治療』『神経免疫と認知症・精神疾患』など、神経免疫学の幅を拓き未来を展望するシンポジウムやホットピックセッション等の企画をもちました。ウェブ上での開催方式はJSNP 2020と同様です。幸い大きなトラブルなくウェブ開催できました。

両学会とも初めてのウェブ開催でしたが、実開催よりも参加しやすいこともあり、例年以上の参加者を得ることができました。ライブ配信の後、約1ヵ月オンデマンド配信しましたが、時間がある時に視聴できてとても勉強になると好評でした。一方、face-to-faceで雑談ができないなど、ウェブ開催のためにできなくなったこともありました。神経病理学会では会場に多数の顕微鏡を用意し参加者が持ち寄った脳神経系のプレパラートをみる伝統があり、私自身、それを楽しみにしてきました。しかし、今回は準備の関係で、一部の教育プログラム以外では、参加者が自分のパソコンで顕微鏡できるバーチャルスライドをウェブ上に用意することができませんでした。

今後の学会開催は、このウィズ・コロナの時代に経験したウェブ開催のメリットを取り入れたハイブリッド形式に進化していくものと思います。両学会の開催にあたり、多くの関係者の方々に多大なご支援をいただきました。この場をお借りしまして心より感謝いたします。

この3月末で私は定年退任いたします。2000年1月に金沢大学に着任し、翌年3月に年報第1号を発刊して以来、この第21号まで、21年間の当科の活動の記録を年報として出させていただきました。皆様の長年のご指導、ご支援にあらためて御礼申し上げます。ありがとうございました。

この年報第21号を御高覧いただき、今後も当科に一層のご指導、ご支援を賜わりますことができましたら誠に幸いに存じます。

2021年3月
山田 正 仁

The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society for Neuroimmunology (JSNI 2020)

第32回 日本神経免疫学会 学術集会

2020年10月1日(木)・2日(金) WEB開催 (LIVE)

URL: jsni2020.jp

【演題募集期間】2020年4月15日(水)～6月2日(火)正午

会場: 金沢市文化ホール WEB開催特設サイト (URL: jsni2020.jp)

会長: 山田 正仁 (金沢大学医学部神経免疫学講座教授)

副会長: 吉川 弘明 (金沢大学保健管理センター)

2020.10.6(金)～31日
オンデマンド配信

神経免疫学が拓く
脳神経疾患診療の未来

【特別講演】
The History of Autoimmune Neurology
金沢大学医学部神経免疫学講座教授 山田 正仁

【シンポジウム】
1. 未来(30年後)の神経免疫疾患の治療
2. 免疫系と神経系
3. 神経免疫と認知症・精神疾患
4. 脳神経免疫学と臨床研究の最新動向

【ホットピックセッション】
金沢大学医学部神経免疫学講座教授 山田 正仁

【臨床教育講演】
金沢大学医学部神経免疫学講座教授 山田 正仁

【教育委員会セミナー】ほか

〒920-8602 金沢市文学部地区東部地区自治会館 101号室 TEL 076-216-7000 FAX 076-216-7100 E-mail jsni2020@nagaoka-u.ac.jp

図2 第32回日本神経免疫学会学術集会ポスター